

# 徳島健闘22位

男子 星城

女子 九州文化学園 制す

バレーボール

全日本高校選手権 行われ、男子は星城(愛知)が2大会連続3度目

会より5度目の制覇となつた。

の高校総体を制した東九州龍谷(大分)に2セット

【男子】 男子は星城(愛知)が2大会連続3度目の制覇となつた。

大会は全日本高校選手権を兼ねた2009年までの総体の記録を引き継いだため、九州文化学園は07年以降の優勝となる。

0-2から 劇的な逆転 九州文化学園

九州文化 3 2525252322 2321182525 九州龍谷(大分) 2

セッター田川主将は「絶対に負けたい気持ちと田中に決めてほしい気持ちだけだった」とトスを上げ続けた。期待に応えたエースのスパイク打数は15回に達し、表に49得点。主砲は「止められてもミスしても仲間が支えてくれた」と語り、

## JX2季ぶり女王

バスケットボール

全日本総合選手権

バスケットボールの全日本総合選手権7日は2日、長崎・国体大会

たす



一般勢の好走が徳島の順位をぐっと押し上げた。3年前の過去最高位(12位)更新こそならなかったが昨年の34位から22位へ。特筆すべきは16年前に生まれた東勢最高タイム(2時間21分35秒)を1秒更新したことだ。苦戦した中高生の運をガババし、屋台骨としての存在感を示した。

「若手に競り合いを経験させてタイムを伸ばそう」と全日本実業団駅伝7位の大塚製薬勢を序盤に配置。その作戦が効いた。1区の伊藤は先頭集団に付け、レースが動いたらまずいから懸命に食らい付いて7位でリレー。2区の井上も持ち前のスピードで後続を寄せ付けなかった。23位でたまきを受けた4区の岡田は「先輩に負けられない」と前回1区に22位と

出遅れた重尋を人抜きで快走で晴らした。最終9区にふるさと選手として登場した新宅は「徳島に貢献したい」と心でピッチを刻む。昨年末に取り組んだ高地合宿の成果を存分に発揮し、次々と5人を捉えゴールに飛び込んだ。

一方、大岩監督が「我慢しろ」としていた中高生区間で大きく後退。慣性的な課題が浮き彫りとなった。5人中4人が初出場という経験不足も重なり、4人が区間40位前後。3区川口と8区遠藤は「全国大会独特の雰囲気の中で力を出せなかった」と唇をかんだ。過去最高タイムを記録した1998年の第16回大会(17位)と比べると、1分短縮した一般勢4区間とは対照的に、中高生5区間は50秒も悪かった。

タイムを更新しても最高順位に届かないのは他の県の進化に追いついていない現実を物語る。伊藤主将は「一般も中高生も今回の経験を生かし地道にレベルアップしていくしかない」。個々の成長の先に、選手最高位更新にとどまらない躍進が待っている。(南彦郎)



徳島の8区遠藤(左)がアンカー新宅にたまきをつなぐ。京都市長丸朝明(秋月修撮影)

## 一般勢好走 順位押し上げ

駅伝 都道府県対抗女子

第32回全国都道府県対抗女子駅伝は12日、京都

市の西京極陸上競技場発着の9区間、42・1955キロで行われ、京都が2時間15分32秒と3年ぶりの栄冠に輝き、最多だった

優勝回数を15に伸ばした。徳島は2時間21分24秒の22位入り、四国勢では2年ぶりにトップに立った。順位は昨年の34

位から上げ、タイムも17位だった1998年の第16回大会を1秒上回る過去最高を記録した。京都は序盤出遅れたが

4区で昨年の世界選手権マラソン4位の木嶋良子(タイハツ)が区間新記録で2位に浮上。5区の関紅葉(立命館学治高)が区間賞で先頭に立ち、そのまま逃げ切った。群馬が7秒差で過去最高の2位。3位が岡山、前回優勝の神奈川は5位だった。世界選手権マラ

ソン銅メダルの福士加代子(フコル)がアンカーを務めた青森は25位。8位以内は4区4位の成績。①京都2時間15分32秒の藤野・時間15分39秒の岡上・時間16分30秒の関野・時間16分32秒の藤新川・時間17分15秒の吉原・時間17分19秒の藤崎・時間17分30秒の福岡・時間18分30秒の徳島・時間18分24秒の徳島・時間18分30秒の徳島・時間18分30秒の徳島・時間18分30秒の徳島

△区(4・107.5km) 徳島(徳島)14分37秒 △区(4・107.5km) 徳島(徳島)14分37秒

## 京都15度目の栄冠

【評】徳島は1、2区が一桁順位をつないで流れをつくり、前回の34位から22位上がった。1区伊藤が序盤から積極的な走りを見せた。2区井上も区間8位の好走で順位をキープした。3区川口はハイペースについていけず23位まで後退したものの4区岡田が力強い走りで7人抜きを演じて16位に浮上。5区福良、6区森が順位を下げたが、7区谷が粘った。後、8区遠藤から21位でたまきを受けたアンカー新宅から5人を抜いた。

徳島・大岩監督 過去最高記録を出せたのは良かったが目標の11位以内に入らず残念。一般勢が力強りに走ってくれたので中高生でもと粘りかけた。想定以上に順位を落とし課題が残った。

後半に粘り強さ ○…2年連続7区(4ギ)を走った鳴門高2年

の谷は他の中高生4人が軒並み後退する中、区間29位と踏ん張り、順位を守った。後者の選手に一時は追い付かれたものの残り1ギの所でスパイトして突き放した。

昨年12月の全国高校駅伝1区で最下位に沈んだ県高校界のエースは「課題だった後半を粘り強く走れた」とほっとした表情を見せた。

福士が12人抜き ○…3年ぶりに出場した青森の福士(フコール)はアンカーで12人抜きの快走だった。10人抜きが目撃を越え「すつきりした。納得、納得」と声を弾ませた。

「感覚とか考えずに突っ込んだだけ突っ込む」と臨んだ。最近はずっと走れなかったことで「やっと気持ちよく走れた」と満面の笑み。今後の出場は未定で春休みに休んで、まだどこかでできれば」と笑った。

た」と声援や拍手を送り、健闘をたたえた。

夜には京都市内で選手団の慰労会も開催。藤木会長は「毎年応援に来てはいるが、今回は過去最高タイムを出すなど成長の跡が見え、とてもうれしかった。これからは選手を支えたい」と顔をほころばせた。

(河野大樹)